

令和元年度 杜陵地区まちづくり懇談会 懇談事項

令和元年7月25日(木)

No	懇談事項	説明	担当部課名
1	<p>肴町商店街の活性化について</p> <p>新天皇が即位され、元号が「令和」と改元、これを機会に先行きに大いに期待したいところ、益々高齢化が進み先を憂いていたところに衝撃の発表が。「ななっく」の閉店である。噂としては承知していたが衝撃は大きく、加えて市内循環バス「でんでんむし」の一日4便の減便情報も流れた。</p> <p>これらの情報に接して思うことは、市内中心部の高齢化の加速化や空洞化に対しては行政の対策に疑問を感じ、住民に丸投げ状態であったやに思う。</p> <p>かくのごとき状況下でまちづくりを提案することは、まるきりの夢を語るに等しい気がするが、敢えて考えることにする。まずは、この懇談会への参加メンバーに、市からの働きかけにより「盛岡市肴町商店街振興組合」を加えるべきと提案したい。同じ肴町の名称をもち「ホットライン肴町」を外して、我々町内会を構成する住民だけで夢を語り、ましてや達成を夢想することなどできないと考える。</p> <p>商店街が活性化してこそくりとしての肴町、杜陵地区、ひいては河南地区の活性化は望むべくも無い。「バスセンター整備基本計画」説明会では、県外からのバスによる観光客が主客の様に思われた。(ちなみに施設としての入居は子育て応援施設、バス旅行者の宿泊施設、大衆浴場、県産品</p>	<p>河南地区の活性化については、ななっくは、河南地区のにぎわいの中核となる商業施設だったことから、にぎわいの維持と中心市街地の活性化を図るため、今般の閉店に伴い直接の影響を受けるテナントの移転に係る改装経費の一部について、中心市街地への移転に限り、補助を行うための特別枠を設け、対応していきます。</p> <p>また、ななっく跡地の再開発については、現時点では、ななっく側から、再開発の意向は示されているものの、具体の計画の提示までには至っていませんが、中心市街地の活性化や地域経済に与える影響を最小限にとどめるため、関係団体とも連携しながら、再開発の早期具体化に向けた働きかけを継続するとともに、河南地区の活性化に向けて、商店街等による活性化やにぎわい創出につながる取組を引き続き支援していきます。</p> <p>新盛岡バスセンターについては、単なる交通結節点としてではなく、にぎわい機能を持つ安心・安全な施設として整備し、バスネットワークをいかした地域の様々な魅力をつなぐ地域の拠点（ローカルハブ）として、中心市街地活性化及び河南地区のにぎわい創出を図り、エリア価値の向上に資することを目的としています。</p>	<p>商工観光部 経済企画課</p> <p>都市整備部 市街地整備課</p>

令和元年度 杜陵地区まちづくり懇談会 懇談事項

令和元年7月25日(木)

No	懇談事項	説明	担当部課名
	<p>の売り場、飲食店等らしい。)</p> <p>このようなことから、当地区の活性化や高齢者対策としてバスセンターを考慮期待することは無意味のように思える。逆に、我々が「新バスセンター」に期待するのは時間に制限されない(到着・停車時刻に)市内循環バスや、運転士が不足ならば、退職者の限定年数起用等で員数確保し、便数減に対処出来ないか。また、医大の移転による通院の足の確保等、高齢者を含む交通弱者への対応策をお願いしたい。</p> <p>従って、今後について構想を練るには振興組合の今後のビジョンを聴講し、一緒に考える機会をつくるのが先決のように思える。</p> <p>まちづくりはそれを端緒として意見を出し合い、進展を期することではないか。高齢者には時間はあまり無い。若手と理解(妥協)しあいながら先のことを考えて行きたい。</p> <p>夢はホットラインを昔の肴町のような老若男女多くの人々が行き交う大通りにしたい。</p> <p>肴町商店街振興組合の若手もそれなりの年齢かと思われ、夢に向かって行動を起こすには今しかないのではないか。</p> <p>(肴町町内会)</p>	<p>このことから、肴町商店街も含めた周辺への波及効果が重要であると考えており、肴町商店街振興組合等で構成される「盛岡バスセンターおよび周辺地区活性化協議会」等から御意見を伺いながら「(仮称)新盛岡バスセンター整備基本計画」を策定しました。</p> <p>今後は、計画に基づき事業を進めることとなりますが、引き続き、肴町商店街や地元の皆様から御意見を伺いながら整備や運営を進めます。</p> <p>高齢者を含む交通弱者への対応策については、市では、これまでも、「盛岡市総合交通計画」等により、公共交通の利便性向上と利用促進に取り組んできており、自家用車を利用できない交通弱者の移動の確保といった課題等も踏まえ、「盛岡市にとって望ましい公共交通の姿」を明らかにするマスタープランとして「盛岡市地域公共交通網形成計画」を策定中です。</p> <p>都心循環バス「でんでんむし」については、年間利用者が約130万人と市民や観光客に好評をいただいておりますが、バス事業者からは、運転士不足のため減便はやむを得ない措置であり、減便の時間帯には、中心部を運行する他のバス路線を利用いただきたいと思います。</p> <p>市は、地域公共交通網形成計画において、持続可能な公共交通網を形成するため、路線バスの運行の効率化と路線</p>	<p>建設部 交通政策課</p>

令和元年度 杜陵地区まちづくり懇談会 懇談事項

令和元年7月25日(木)

No	懇談事項	説明	担当部課名
		<p>網の見直し再編に取り組むこととしています。その際には、通勤・通学だけではなく、通院、買い物など移動目的に応じた運行間隔、運行時間に見直すなど、高齢者を含めた利用者のニーズに応えるようダイヤの見直しについても検討することとしています。</p> <p>なお、矢巾町に移転する岩手医科大学付属病院への移動の確保については、新病院が入院中心であり、外来患者の多くは内丸のメディカルセンターやその他の医療機関を利用するものと思いますので、公共交通の利用状況を見ながら、新病院への移動が確保されるよう、交通事業者に働きかけます。また、市立病院につきましても、救急を含め、診療体制を充実させていきますので、御利用願います。</p> <p>さらに本計画では、ICカードの導入やバスロケーションシステムの更新、そしてノンステップバスの導入促進などにより、路線バスの利便性や安全性の向上を目指していることや、すでに実施している高齢者対象の「おでかけバス事業」の継続により利用促進を図ることで、高齢者を含めたより多くの方が移動するようになれば、まちの活性化にも寄与するものと思いますので、引き続き公共交通の利便性向上と利用促進に努めます。</p> <p>高齢者の増加に伴い、一人暮らし高齢者や高齢者のみ世帯の数も増加傾向にある中で、買い物や通院など、日常生</p>	<p>保健福祉部 長寿社会課</p>

令和元年度 杜陵地区まちづくり懇談会 懇談事項

令和元年7月25日(木)

No	懇談事項	説明	担当部課名
		<p>活における様々な課題が今後生じてくるものと認識しています。</p> <p>市では、高齢者が住み慣れた地域で自分らしく暮らすことができるよう、医療、介護、予防、住まい、生活支援が切れ目なく提供される「地域包括ケアシステム」の構築を進めており、市内それぞれの地域で必要とされる支援のあり方を検討していくこととしています。今後も、高齢者の皆様が地域で安心して暮らすことができるよう皆様とともに考え、取り組んでいきます。</p> <p><b>【令和元年12月2日現在】</b></p> <p>ななっくの再開発については、今般、盛岡市内の不動産事業者が土地・建物を取得したことが明らかとなり、再開発の実施主体の方向付けがなされたことは一歩前進であると考えます。</p> <p>今後、再開発の具体化に向けた動きが進んでいくものと考えますが、開発者からの相談に随時応じるとともに、再開発に向けた国の補助制度の活用も視野に入れた支援策を検討し、関係団体と連携しながら、引き続き、河南地区及び中心市街地の活性化に取り組めます。</p> <p>次に、ななっく閉店を受けて、中心市街地に移転して営業を継続するテナントに対する支援策として実施している、移転先店舗の改装費補助の現状については、11月28</p>	

令和元年度 杜陵地区まちづくり懇談会 懇談事項

令和元年7月25日(木)

No	懇談事項	説明	担当部課名
		<p>日時点で相談延べ19件、申請6件、交付決定6件、うち交付済2件となっています。</p> <p>交付決定件数6件の内訳としては、河南地区への移転が4件、河南地区を除く中心市街地への移転は2件となっています。</p> <p>今後、申請がなされるテナント数は、十数件程度と見込まれますが、未申請のテナントには再度、個別に案内を行い、補助制度の活用を促します。</p> <p>新盛岡バスセンターの、バスターミナル及びにぎわい施設の整備については、令和元年11月5日に設計・建設事業者を対象とした説明会を開催し、同日から設計事業者の資格審査手続きを開始しました。</p> <p>また、にぎわい施設については、テナント、設計・建設事業者の選定などを代理人である株式会社 盛岡地域交流センターと連携しながら進め、令和3年度の開業を目指します。</p>	
2	<p>杜陵地区界隈の今後のまちづくりの在り方について</p> <p>*公共財産を生かす方策の検討</p> <p>(地域内交流及び避難場所を兼ね備えた施設を女性センター別館、肴町分庁舎の敷地に検討出来ないか)</p> <p>杜陵地区界隈は、これまで市の中心市街地としてその賑わいを保っておりましたが、昨今、バスセンター問題や「ななく」の撤退ということもあり、将来的な見通しが不透</p>	<p>(商工観光部、都市整備部・・・1, 2共通説明につき省略)</p> <p>旧女性センター別館については、建物の老朽化が激しく、耐震改修が困難であり、平成30年度に肴町分庁舎と併せて</p>	<p>商工観光部 経済企画課 都市整備部 市街地整備課</p> <p>総務部 管財課</p>

令和元年度 杜陵地区まちづくり懇談会 懇談事項

令和元年7月25日(木)

No	懇談事項	説明	担当部課名
	<p>明な状況にあります。</p> <p>バスセンター問題については、全市的な問題として市御当局において鋭意検討されていると伺っておりますので、この場においては、まず「ななっく」の撤退の問題の大きさについて取り上げたいと思います。この「ななっく」は、食料品や日用品が揃う便利な買い物の場所という面のほか、高齢者など地域が気軽に立ち寄れる絶好のたまり場、交流の場となっています。</p> <p>杜陵地区にはそういった交流できる施設が乏しい状況の中で「ななっく」の存在は極めて貴重なものとなっていますので、撤退というニュースは地域の皆さんには衝撃的に捉えられています。</p> <p>また、杜陵地区には、肴町に女性センター別館が今でも空き家のままで残っております。以前にここの活用について懇談をさせていただいておりますが、併せて隣接の市庁舎の肴町分庁舎の撤退も検討されているとお聞きしております。この地区としてはかなり大きな敷地が生み出せる訳であり、いつまでも空き家（廃墟）としておくのは実にもったいない気がしますし、小学校や保育園にも隣接していることから、子供から高齢者までが交流できる絶好のエリアに成り得る空間であります。</p> <p>さらに、杜陵地区が市の中心市街地にありながら、洪水時や地震時における避難場所が十分でないことも踏まえる</p>	<p>解体することとしていましたが、中央公民館の大規模改修に伴う仮執務室として肴町分庁舎を利用するため、解体を2年間延期しました。</p> <p>肴町分庁舎については、令和2年度の機能廃止を予定しており、今年度には庁舎内の執務室を若園町及び内丸分庁舎に移転する予定です。</p> <p>両施設の跡地利用については、一部とりょう保育園の園庭として使用する予定としていますが、両施設ともアスベストの含有により、解体に相当な費用が見込まれるため、民間活力による費用負担の軽減等を図り、建物付公募売却を基本に考えていますが、様々な角度から検討を進めます。</p>	

令和元年度 杜陵地区まちづくり懇談会 懇談事項

令和元年7月25日(木)

No	懇談事項	説明	担当部課名
	<p>と、まとまった市有地に一定規模の公共施設が実現すれば、防災の拠点としても大いにその機能が発揮できるものと考えられます。</p> <p>この敷地の活用方針を早急に検討し、小さな子供を持つ子育て世代や高齢者など全ての世代が安心して活動できるような拠点づくりが、この地域に住む人々の生き生きとした暮らしを支えることができるものと考えます。</p> <p>杜陵地区には以上の様に利用が進まない公共財産があることから、それらを生かす方策を考えるなど、杜陵地区界限の今後のまちづくりの在り方について懇談したい。</p> <p>(馬場町町内会)</p>		
3	<p>町内会活動の活性化について (町内会活動を担う役員のなり手が見つかりません。)</p> <p>昭和の時代、下ノ橋町には20種以上の様々な業種の店舗があり、日常生活品はほぼ地元の商店街でまかなえていました。店主には若手が多く、その方々が町内会活動を主導していました。</p> <p>しかし、郊外型大型小売店の進出により商店街は消滅。勤め人は65歳まで現役の時代となり、さらには企業の努力義務として70歳まで就労機会を確保するよう法改正を行うことも提示されています。町内会を切り盛りする人材がいなくなります。</p>	<p>町内会役員の担い手不足については、全市的に課題があるものと捉えており、地域の実情に合わせた取組が必要と認識しています。</p> <p>地域活動への企業などの参加については、現在、企業、NPO、町内会など多様な主体が協力してまちづくりを行う取組に対して支援する地域づくり補助金制度がありますので、この制度の活用も御検討願います。</p> <p>また、町内会の役割や方向性を明確にし、その活動のための役員不足解消や活動に参加しやすい仕組みづくりを再</p>	市民部 市民協働推進課

令和元年度 杜陵地区まちづくり懇談会 懇談事項

令和元年7月25日(木)

No	懇談事項	説明	担当部課名
	<p>昨年、南大通二丁目町内会はユニークな活動で「平成30年度・元気なコミュニティ」として岩手県から認証されました。その“肝”は、町内にある企業の若手が町内活動に参加する、というものです。「企業の地域活動参加」に新しい町内活動の在り方の可能性を感じます。</p> <p>令和の時代が始まった今、地域活性化のために町内会、福祉推進会そして行政がそれぞれどのような役割を担っていくのか。時間をかけても議論を重ね、具体的な仕組みを構築していくことが求められていると考えます。</p> <p>(下ノ橋町町内会)</p>	<p>構築していくため、今年度から、各地域からの意見を聞く機会の設定や、アンケート調査も行いながら、「盛岡市町内会・自治会協働推進計画」の見直しに取り組むこととしています。</p> <p>町内会の規模や場所による特徴をしっかりと確認するとともに、地域活性化のためにどのような活動ができるか一緒に考えていきます。</p> <p>地区福祉推進会は、町内会・自治会のほか、地区民生児童委員協議会など様々な住民組織で構成された団体であり、町内会・自治会より広い立場で、地区コミュニティにおける福祉活動の活発化、及び社会福祉事業の充実・発展に取り組むなど、地域住民による「共助」の活動を担っていただいています。</p> <p>例えば、高齢者の見守り活動である「シルバーメイト事業」や、一人暮らしの高齢者が参加できる場の提供である「ふれあいシルバーサロン事業」などを実施しており、杜陵地区福祉推進会においては、「マンションサミット」を開催するなどし、新しい住民参加の取組を行っています。</p> <p>今後におきましても、地区福祉推進会の持続的な活動に、広く反映できるよう取り組みます。</p>	<p>保健福祉部 地域福祉課</p>